



このコーナーは新刊の心理学関連書籍を著者自らにご紹介いただくコーナーです。

## 認知行動療法事典

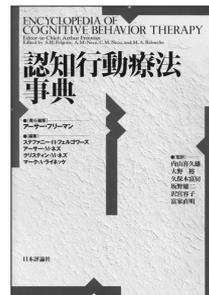
坂野雄二

2010年4月から認知行動療法(CBT)が一部保険診療の対象となったこともあり、専門家のみならず患者さんからのCBTに対するニーズは非常に高くなっている。また、CBTは今や医療現場にとどまらず、さまざまな心理臨床場面、対人援助領域における心理社会的治療法のコアとなるものである。

こうした背景から関連本が溢れるなか、CBTの包括的な理解に資する画期的な「読み事典」である本書を刊行することができた。①うつ病や不安、PTSD等の疾患別、②児童青年期、高齢期等の対象者別、

③アクセプタンス&コミットメント・セラピー、ケースフォーミュレーション等の技法別、④病院・学校等の領域別、⑤認知プロセスや関連分野等、広汎な全116項目からなる本書では、世界各国の第一線の執筆陣によって、基礎理論の発展や実証的な研究成果が明快かつ丁寧に述べられ、これまでのCBTの到達点と今後の課題が明瞭に提示されている。

初学者から研究者、臨床家にとってCBTを理解するために必読の書であり、多くの方にぜひ手にとっていただきたい1冊である。



監訳 内山喜久雄・大野裕・久保木富房・坂野雄二・沢宮容子・富家直明  
発行 日本評論社  
B5判／512頁  
定価 本体15,000円＋税  
発行年月 2010年12月

さかの ゆうじ  
北海道医療大学心理学部教授。専門は臨床心理学(認知行動療法)。著訳書はほかに、『不安障害の認知行動療法』(共編、日本評論社)、『ワークショップから学ぶ認知行動療法の最新線』(共編、金子書房)、『うつ病の認知療法(新版)』(監訳、岩崎学術出版社)、『不安障害の臨床心理学』(共編、東京大学出版会)など。

## エピソードでつかむ児童心理学

(シリーズ生涯発達心理学 3)

伊藤亜矢子

心理学は、学校現場での子ども理解に役立つし、面白い。学校や家庭で、あるいはこれから教師やスクールカウンセラーになる人たちに、心理学の研究成果をもっと活用してもらえたら。それが本書の編集方針です。児童心理となっていますが、学童期を中心に、虐待やプレイセラピーなど臨床的な内容も多く含んでいます。また、各執筆者には、わかりやすさだけでなく、近年の研究成果やその面白さを伝えてもらうため、なるべく各自が長年携わってきた研究領域や主題について執筆してもらい

ました。各人が味わってきた研究の面白さや鋭さが伝われば幸いです。さらに、シリーズの特徴である各節のエピソードでは、それぞれの立場から、具体的な子どもの姿を描いてもらいました。社会心理学や教育心理学、臨床心理学など各執筆者の領域によって、エピソードの書き方が微妙に異なるのも筆者として面白い発見でした。心理学の知見が生きた子どもたちの生活の中にどう見出せるか、また知見を基に子どもたちにどう関わるか、それらを考えるヒントとして、本書を活用していただければ幸いです。



編著 伊藤亜矢子  
発行 ミネルヴァ書房  
A5判／280頁  
定価 本体2,800円＋税  
発行年月 2011年1月

いとう あやこ  
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授。専門は学校臨床心理学。著書はほかに、『学校臨床心理学：学校という場を生かした支援(改訂版)』(編著、北樹出版)、『教育心理学の新しいかたち』(分担執筆、誠信書房)、『よくわかる発達心理学』(分担執筆、ミネルヴァ書房)、『小冊子スクールカウンセラー活用アイデア』(単著、東京法規出版)など。



著 岡田 斉  
発行 勁草書房  
四六判 / 320 頁  
定価 本体 2,900 円 + 税  
発行年月 2011 年 2 月

おかだ ひとし  
文教大学人間科学部臨床心理学科教授。専門は知覚心理学、認知心理学。著訳書はほかに、『臨床に必要な心理学』（編著、弘文堂）、『イメージの世界：イメージ研究の最前線』（分担執筆、ナカニシヤ出版）、『人間科学としての臨床心理学』（分担執筆、金剛出版）、『聴覚心理学概論』（共訳、誠信書房）など。

## 「夢」の認知心理学

岡田 斉

夢に関する心理学的な研究といえば、一般的にはフロイトに始まる精神分析を思い浮かべる人が多いでしょう。一方で、REM 睡眠の発見以降行われてきた生理心理学的な視点からの研究こそが科学的な研究だと考える人も少なくないかもしれません。これまで日本で紹介されてきた夢に関する研究は、概ねこの二つの流れのどちらかに属するものでした。

しかし本書では、そのどちらにも属さない「第三の」立場からの研究があることを紹介しています。これらの研究は、精神分析の

ように夢を分析するのではなく夢体験そのものを明らかにすることをめざし、脳波などの生理学的指標を手段として用いながらも認知心理学的な視点から夢を取り扱う点に特徴があります。厳密な科学的な方法論を用いているのですが、得られた結果は、日常的な夢体験にいちばんしっくりくると私はまとめながら強く感じていました。夢について新たな、そしてどこか懐かしい心理学の知識を感じ取っていただけることを願っております。



編著 仲真紀子  
発行 ミネルヴァ書房  
A5 判 / 264 頁  
定価 本体 2,500 円 + 税  
発行年月 2010 年 11 月

なか まきこ  
北海道大学大学院文学研究科教授。専門は認知心理学、発達心理学、法と心理学。著書はほかに、『法と倫理の心理学』（単著、培風館）、『目撃証言の心理学』（共著、北大路書房）、『子どもの発達心理学』（共著、新曜社）、『認知心理学の新しいかたち』（編著、誠信書房）、『認知心理学へのアプローチ』（編著、金子書房）など。

## 認知心理学 心のメカニズムを解き明かす

(いちばんはじめに読む心理学の本 4)

仲 真紀子

認知心理学の発展の過程においては、重要な三つの発見があったように思われる。第一は、ブラックボックスではない心のメカニズムを探る、という目標の発見。第二は、実験室だけでは足りない、フィールドや自然文脈での研究も重要だ、という発見。そして第三は、現実の課題が認知心理学の研究や成果を必要としている、という発見である。ナイサーは「心理学者が研究していないところにこそ面白い問題がある」と言ったが、今や認知心理学者は、世の中のたいへん面白いところで仕事をして

いると言えると思う。

本書は初学者に向けて執筆された。楽しく研究を進めている 11 人の著者が、「私たちは世界をどのように見ているのか?」「私たちはどうやってことばや音楽を聴き取っているのか?」「時間の経過はどのようにわかるのか?」といった、身近だが深淵な問いへの答えを求める旅に必要な基礎知識と方法を提供している。認知心理学の魅力に触れ、三つの発見を極め、第四の発見へとつないでいただければ願う。